

第 21 回鳥学講座

ハシボソガラスとハシブトガラスの微妙な関係

～ 2 種のカラスの環境利用と繁殖生態～

講師：吉田保志子

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター 主任研究員



ハシボソガラスは農村のカラス、ハシブトガラスは都会のカラスと言われることがあります。東京の都心部に生息しているのは、確かにほとんどがハシブトガラスです。けれども、ハシブトガラスは都会だけではなく農村にも多く生息しています。私たちが茨城県南部の農村地域で行った調査では、ハシボソガラスとハシブトガラスの両方が広く普通に生息しており、その比率はおおよそ 3 : 2 であることがわかりました。

ハシボソガラスとハシブトガラスは別種なので、細かく見れば違っているところは当然たくさんあります。しかし、大まかに見ればそれほど違わないとも言えます。どちらも全身黒色で「カラス」としてまとめて呼ばれてしまうことも多く、ねぐらには両種が集まります。体格はハシブトガラスのほうがやや大きいですが、体重や翼長などの体の大きさを計測した調査によれば、ほとんどの計測項目において、最も小さいハシブトガラスと、最も大きいハシボソガラスの値は互いに重なりあっており、ある部位の計測値のみで 2 種を識別することはできません。

2 種のカラスが入り混じって生息している農村地域で、彼らはどのように環境を利用し、互いの関係はどのようなになっているのでしょうか。

私たちは、茨城県南部で、田畑や林からなる農村環境 3 ケ所、森林 1 ケ所、住宅地 1 ケ所の合計 58km² の調査地をくまなく回り、カラス 2 種の営巣場所やなわばりを発見するとともに、繁殖の成否と巣立ったヒナの数を調べました。得られたデータから、2 種の好む環境は異なるのか、どのような環境で生息密度が高いのか、繁殖の成否や巣立ったヒナの数には何が影響しているのかといったことを分析しました。その結果、ハシボソガラスでは、隣のハシブトガラスの巣との距離が近いと繁殖に悪影響があるが、ハシブトガラスは隣のハシボソガラスの存在に影響されないといった、興味深いことが明らかになりました。

今回の講演では、これらの結果をもとに、身近な鳥でありながら、意外に知られていないカラスの生態や 2 種の相互関係を紹介し、都市と農村の比較についてもお話ししたいと思います。

●講師プロフィール

1971 年埼玉県生まれ。修士（環境科学）。

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター 主任研究員。

おもにカラスの生態と農業被害対策を研究。専門は鳥類生態学。

日時：平成 23 年 10 月 22 日（土）午後 2 時 30 分～4 時 00 分
場所：アビスタ（我孫子市生涯学習センター）ホール
主催：我孫子市鳥の博物館・（財）山階鳥類研究所